

節目の自覚

もうすぐ師走。**節目の時期**を迎えます。節目と聞いて、竹をイメージする人は多いはずです。

竹は、人の在り方と関連させて「竹のように、強くしなやかでありたい」などと、比喩的に用いられることがあります。

言うまでもなく、**竹の強さとしなやかさ**は、その深い根と共に**節目**が支えています。

今は昔に比べて、年末年始の節目を感じにくくなっています。私が子供の頃、年末年始といえば商店はどこも閉まっていました。三が日の食品は買いためたものです。今や、年中無休の店があります。正月でないと食べられなかった品々も、日常の食卓を飾っています。

そうした中、竹のように私たちも「**節目を自覚し、生かす**」ことが必要であると考えます。「節目を自覚し、生かす」とは、**来し方を振り返るとともに行く末を見通し、新たな目標と計画を立てる**ことを指します。

この年末年始、学校及び家庭で**子供の新たな抱負を引き出し、受け止め、励ます**ことを通して、**節目の自覚**を促したいものです。かけがえのない子供たちの、**竹のようにしなやかで、たくましい成長**を祈りながら……。



独自性

ノーベル生理学・医学賞受賞者・北里大学特別栄誉教授・女子美術大学名誉理事長 大村 智
人と同じことをやっていると 良くてその人と同じで止まる
独自のことをやると 人より悪いこともあるが
人を越えるチャンスが生じる

出典：「人をつくる言葉」（大村 智著 毎日新聞出版社）

※ どんな分野でも「これはあの人の仕事だな」と分かるオリジナリティにこそ価値があると、氏は述べています。